



第2学年 「連立方程式」 近藤 佳奈 教諭

連立二元一次方程式が解けるようになるとともに、一元一次方程式に帰着させて考察するという問題解決の過程そのものを既習内容として用いることで、未習の連立三元一次方程式を解くことにも活用できることをねらった提案でした。

協議では、「導入課題は生徒の興味をひくものであったが、連立方程式を解くことに力点が置かれてしまった。既習との関連等に生徒自身が気付く手立てがさらに必要だったのではないか」等の意見が出されました。授業者の近藤教諭は「既習の学びが次へつながることを再確認できたので、連立二元一次方程式を解いた過程を大切にしていきたい」と授業改善の糸口をつかんだようでした。



問題場面から数学を創るプロセスを大切に

①図の関係や表し方について全員の生徒に捉えさせ、安心した中で学ばせていくこと、②連立方程式を解くことよりも、2つの文字のある連立方程式では2つの式が必要であることを基に、3つの未知数があれば3つの式が必要ではないかということを生徒に類推させ、連立方程式は文字の数と同じ数の式が必要だ(文字の数と同じ数の式がないと解が定まらない)ということを生徒自らに気付かせるような学習展開(プロセス)の大切さについてご指導いただきました。

齊藤一弥
学力向上総括
専門官による
指導板書



授業者の声

視点を絞り生徒に考えさせたいことを明確にした授業づくりが大切だと改めて感じました。生徒が学びたいことと教師が生徒に考えさせたいことを結び付けるために、教材研究や発問の工夫に努めたいです。

参会者の声

教材がもつ価値や本質について生徒に必然性をもって学ばせる授業の大切さを感じました。また、数学的な見方・考え方の捉えについて再度学ぶことができました。

【佐川中 井上卓也教諭】

次回：教材研究会
8月23日(木)

9時5分～

1年「方程式」

明日からの学びをともに描きましょう。ぜひご参加ください!

